



練馬産野菜争奪! 小学生女子ソフトボール大会 ～ ベジタブルカップ ～



ソフトボール × 練馬産野菜 みんなで育てる絆

課題

競技人口減と地域のつながり不足

練馬区では小学生女子ソフトボール競技人口が減少し、チーム存続が危機的状況にあります。一方、地元農業は情報浸透や収穫期の人手不足が課題で、地域コミュニケーションも希薄化。子どもが第三者と交流する機会が少なく、安全・安心な環境づくりが求められています。

アイデア

スポーツと農業を結ぶ新しい交流

ソフトボール大会「ベジタブルカップ」を開催し、景品に練馬産野菜を採用。大会会場に農業生産者紹介コーナーを設け、生産者情報を発信。さらに収穫体験を通じて子どもと生産者の交流を促し、スポーツと農業を結ぶ新しい地域コミュニティを創出します。



実施団体

上北小ソフトボール部

平成元年に活動を開始した、石神井台を拠点とする小学生女子のソフトボールチーム。現在は22名が所属し、技術向上と親睦を目的に、地域の大会やイベントに積極的に参加しています。監督を務める軽部哲史氏は、地元出身で消防団活動にも携わるなど、地域とのつながりを大切にした指導を行っています。

大会運営・地域交流の推進

あーばんあぐりぱーく石神井台の会

令和6年に設立された、都市農業の発展と地域交流を目的とする団体。体験農園の運営や収穫祭の開催、地域イベントへの参加などを通じて、農業の魅力を広く発信しています。会員は農業者を中心に構成され、地域の子どもたちとの交流にも力を入れています。

農産物提供・収穫体験



スケジュール

～4月

6月

7月～

11月

企画検討

収穫体験

大会準備・調整

ベジタブルカップ開催

- ・開催日程・会場の調整
- ・関係チーム、農家との打ち合わせ
- ・協賛依頼

- ・農家との調整
- ・体験プログラム作成
- ・体験当日の準備

- ・参加チーム募集、開催説明
- ・生産者紹介コーナー検討
- ・野菜、果物の手配
- ・ボランティア、審判確保
- ・大会運営内容の検討

- ・パンフレット準備
- ・試合スケジュール最終調整
- ・スタッフ配置、役割分担確定
- ・開会式等の進行確認
- ・景品、賞状、大会歌準備



実施内容

畑で学ぶ、野菜と地域の魅力

6月22日(日)、上北小ソフトボール部の選手たちが、区内農家の「あーばんあぐりぱーく石神井台の会」協力のもと、夏野菜の収穫体験を行いました。当日はじゃがいもや夏野菜を収穫し、農家から育て方や収穫のコツを学びながら、児童たちは畑を駆け回りました。「野菜ってこう育つんだ」「農家さんってすごい!」と驚きの声も。普段の生活では得られない、地域とつながる貴重な体験となりました。



熱戦と笑顔 野菜で農業とつながる一日

11月15日(土)、22日(土) 秋晴れの空の下、練馬区内外からチームが集まり「ベジタブルカップ」を開催しました。キャベツ・枝豆にちなむリーグに分かれ、予選から順位決定戦まで熱戦が繰り広げられ、グラウンドには迫力あるプレーと保護者の熱い応援が響き渡りました。



開会式では、主催者から練馬の野菜生産量ランキングや野菜に関する話があり、参加賞として練馬産の野菜や果物が子どもたちに手渡されました。会場には農業生産者紹介コーナーを設置し、地元農家から「たくさん食べて、怪我なく楽しんで!」といった温かいメッセージが寄せられ、都市農業の魅力を感じる時間となりました。

閉会式では成績発表と表彰式を行い、上位チームには賞状、最優秀選手には特大バナナを贈呈。最後は大会歌を全員で合唱し、笑顔で大会を締めくくりました。スポーツと農業をつなぐ新しい地域交流の形として、参加者にとって忘れられない一日となりました。



事業の成果・今後の展開



続くスポーツと農業の絆

大会と収穫体験を通じて、子どもたちが農業への理解を深め、生産者との交流で地域に顔の見える関係が生まれました。スポーツと農業を結ぶ新しい地域交流のモデルとして、参加者にとって忘れられない経験になったと感じています。

今後も収穫体験や大会を継続し、協力農家や参加チームを増やしなが、地域のつながりを深めるイベントとして定着させ、スポーツと農業の魅力を広く発信していきたいと考えています。